

## 第25回市民ふれあいトーク―地域力を活かすまちづくり―

日時 平成23年3月20日 13:30~15:00

場所 真備公民館

### 要約版

#### 〈市長〉

最初に、東日本が本当に未曾有の大災害になっておりまして、親戚・お友達もいる方もたくさんいらっしゃいまして、全国から救援の手を今差し伸べているわけです。災害が3月11日に起こりまして倉敷市の方からはその次の日に消防隊を派遣いたしました。車が特殊工作車始め7台と22名の消防職員が行きまして、今第2次隊まで行っております。宮城県塩竈市と多賀城市で現地の捜索を行っておりまして、他の県から来ております消防隊と一緒に総合公園のグラウンドにテントを構えまして野営で頑張ってもらっております。給水車をやはり同じ日に出して仙台の方に行っておりまして、こちらですでに第2陣まで行っております。現地の方でやはり断水の地域が多いということで2トンの給水車を持って行きまして避難所の学校で水を配っております。給水部隊につきましては仙台市の水道局の会議室の方に泊まって頑張っております。そして一昨日、国の方から医師と保健師の派遣だけと言われていたんですけど、医師と保健師を現地の方に合計で3名、行く場所が災害が非常に大きく現地の約半分が壊滅しているとテレビでも言われておりました岩手県大船渡市の方へ行くことになりました。テレビでもなかなか温かいご飯が食べられていないという話でしたのでお米を持って行くことにいたしまして、幸い岡山西農協さんと倉敷かさや農協さんからお米を400キロご寄贈頂きまして、トラックに積みました。そして何も器具がないということでしたので、真備の公民館の方からはちょっと分からないのですが、市内の公民館の方から鍋・窯を緊急に集めさせていただきまして、鍋の蓋に職員で「大船渡頑張れ」、「皆応援しています」とマジックで書きまして積み込みました。はたと考えたら皿もないということでございましたら、米を握りましたらサランラップで巻いて配ったらいいんじゃないかと旭化成さんの方から業務用の75メートルのサランラップを約100本位ご寄贈いただきました。それと市民の皆様からの毛布とかトイレトペーパーとかカイロです。灯油がないということでしたので、貼るカイロをラジオ等で呼びかけましたら一日で約3,000個皆さん持ってきて下さいまして、トラックに積みまして18日に出発いたしました。約24時間後の昨日、大船渡の市役所は大丈夫でしたので、市役所に到着いたしまして、荷物を降ろしまして大船渡の方では市役所から各避難所への配送ルートは避難の皆さんがそれぞれにちゃんとルートができているということで、そこから各市内の避難所の方へすでに物資も行って、お米も炊いて下さっているということでした。そこで保健師と医師が避難所を回りましてマスクを配ったり、血圧を測ったり、もちろん防寒具もですが、医薬品が足りないということでしたので、高血圧の薬等を取りあえず医師が行きますので、何千錠か持たせまして現地で処方しまして、高血圧の薬とか必要な方にお渡しする体制で今やっております。今後倉敷市の方からも申し出をしておりますが、多分何十万人も避難されておりまして、家がなくなっているということで現在倉敷市の市営住宅で当面今すぐの所は15戸だけすぐあったんですが、それ以外でも市営住宅の確保をしております。市営住宅や例えば今検討しておりますが、マスコミの皆さんいらっしゃってしゃべりにくい部分もあるんですが、市内の市営のものでか、もしくは民間の方でも空き家があるので提供しようと言って下さる方も随分いらっしゃっており

ますので、そういうもの等も含めまして申し出をしていこうと思っております。多分大変多くの方がこれから福島の原因の関係では村ごと避難されたりしておりますが、家がなくなって、でも家族は皆無事なので今後家族ごとどこかへしばらく引っ越したい方もいらっしゃると思います。もしくは家族が皆さん行方不明になられて、絶対どこか離れるのは嫌だという方も当然いらっしゃると思います。なので、それぞれの方の要望を聞きまして受け入れ体制をしっかりとしていきたいと思っております。実は消防隊の第一陣が帰ってきまして、一昨日報告会があったんですが、消防の岡山県倉敷市と書いた消防の車両が7台連ねて走っていらっしゃいましたら、東北の方が手を合わせて拝んで下さっていたり、手を振って下さったりしたと。本当に遠くの所から来て頑張ってくれていると皆感謝してくれましたし、それが元気になっていると聞きまして、本当に早く派遣して良かったと思っております。これからが本当の避難の後の支援だと思っておりますので、頑張っていきたいと思っております。

それに先立ちますのが、クライストチャーチと一緒に行っていただいた方もたくさんおられますが、姉妹都市のクライストチャーチで2月22日に大変大きな地震が起きました。全国的、全世界的にも多分地球の中で見たらきつとこの時期はわりと色々な所で活動が盛んな時期になっているのかも知れないので、本当に気を付けないといけないと思いますけれど。クライストチャーチの方にも3名、救命救急士2人うちの国際課の課長を派遣しました。クライストチャーチの人口が38万人、そのうち被害を受けられた方が、中心部が集中的になったということでマスクを5万枚持っていきました。向こうでの被災直後の状況からだんだん液状化現象から、乾きましたら埃が非常に凄く、マスクがないと片付けもできないのでマスクが要ると、うちの隊員から報告を受けましてすぐに送りました。18万枚備蓄しておりましたが、インフルエンザがだんだん下火になってきた時期ということで、クライストチャーチに5万枚送りました。帰ってきまして、東日本の方に18万枚のうちまた追加で5万枚送っているところでございます。

皆様にご報告を申し上げないといけないのでございますが、倉敷市から今年度の倉敷市の全体の予算の中の義援金8千万円を東日本の方に代表して送らせていただいております。一人どのくらいするかという話もいろいろある都市もあるんですが、倉敷市としてはだいたい1年間に予備費という緊急の時に使える予算を1億円組んでおります。その中で今年度22年度が今最後の3月になりまして、残りが約8400万円ございます。それをクライストチャーチと東日本の方に分けて今年の残っているお金はほとんど全部被災の方へ回したいと議会の方と相談しまして、早速送らせていただいているところでございます。それ以外にも今義援金をずっと募らせていただいておりますし、各地区の方からもたくさんの義援金をいただいたということで、倉敷市民の皆さんの気持ちを現地の方に早く伝えていきたいと思っております。今後とも支援を全般的にわたってやっていきたいと思っておりますので、地域の皆様におかれましても、どうぞよろしく願いいたします。それが今の災害の話でございます。

それではこの一年間の大きなことでありますとか、真備地区に関しまして変化が起こっていることについてお話をしたいと思っております。まず昨年に大きくありましたことは、小田川の改修、高梁川の河川改修の計画がだんだん具体的に国の方から計画して示されたということがございました。高梁川の河川改修計画、小田川の改修もあります。国の方から明確な計画が示されまして倉敷市といたしましては、なるべく早く進めてもらいたいということと、それから今だんだん国の方もやってきて下さっておりますが、もちろん今すぐに高

梁川の河川改修になるわけではありませんので、例えば堤の中の繁茂している木や土等もなるべく早めに取りってもらって、改修がスムーズに行くように、だいたい河川の方は川下の方からいろんな整備をしていきます。そうすると高梁川の一番下の方から行きましたらこちらの方に来るまでに非常に時間がかかりますから、少しでも早くできるように要望を付け加えて、高梁川の改修、小田川の改修について、今市の方から意見を申しています。

確か去年のふれあいトークの時に県の特別支援学校のことについて県の方に強くお願いをしているとご報告申し上げまして、その直後くらいに岡山県知事さんに決めていただいたと思いますが、地域の皆様には本当にお世話になりました、箭田の地区の吉備真備駅の南側に県内最大の県立の高校を作っていただけることになりました。全体で260名の子どもさんが通われるということでございまして、今倉敷の市役所の近くの倉敷支援学校の生徒さんもできました暁には約半分がこちらの方に引っ越してくる計画にだんだんなっていくと思っております。ですので、地域の中の人の行き来も結構多くなるのではないかと思っております。地主の皆様方大変なご協力をいただきまして、今のところでは平成26年4月の開校を目指しましてやっている所です。平成23年度中に市の方が土地の造成をしまして平成24、25年と県が建設をしてくれまして、26年の4月開校ということで、今おかげ様で順調に進み始めているところであります。

今年に入りまして、1月にすぐ真備の総合体育館がオープンいたしております。ちなみにもう足を踏み入れていただいた方どのくらい居ますでしょうか。ありがとうございます。3割くらいですね。使いやすい建物になっているのではないかと思いますが、また使った感想なども教えていただければと思います。そこには太陽光発電や電気自動車の設備も整備をしておりますので、市内のモデル的な体育館になればいいなと思っております。そして川辺の健康福祉施設「いきいきプラザ」が今度4月にオープンいたします。こちらもおかげ様で順調に進んできておりますので、真備地区の皆様を始めとして他の地区の皆様も大変楽しみにしておりますので、他の地区の皆様とも行き会ったらぜひ仲良くしていただきたいと思っております。特に玉島の皆さんが温水プールが自分の地区にないということで楽しみにしていらっしゃいますので、よろしくお願い致します。3月末にオープン式をやる予定となっております。

平成22年度に真備地区で新しく始めましたものは、真備公の顕彰の囲碁大会を新しく倉敷市の事業として始めた所です。これまで囲碁・将棋の中では大山名人の関係で倉敷市としては将棋に藤花戦を始めとして非常に力を入れていたのですが、真備公が日本に囲碁を持って来られたということがありますので、吉備真備公記念の囲碁大会を始めました。1回目にも係わりませず200名の方が来て下さいました。ちなみに囲碁をされる方はどのくらいいらっしゃいますでしょうか。ありがとうございます。倉敷市全体の囲碁大会でございましたので、真備地区の方だけじゃなくて市内全体からいらっしゃいまして、児島の地区の方が「倉敷市が将棋だけじゃなくて囲碁の方に力を入れてくれて嬉しい」と言っておりましたので良かったと思っておりますし、ますます真備公の顕彰もこの囲碁大会で発展するようにと今考えております。

今年平成23年に変化が起きます事といたしましては、合併をいたしまして今丸5年が経過をいたしまして、先ほどの体育館や健康福祉施設等の施設もできているわけですが、大変課題となっております水道料金の統一が今度の8月からできることに何とかなりました。だいたい一家4人家庭であれば、2ヶ月ごとに料金の請求が来ていると

と思いますが、2ヶ月分でこれまで約5100円とか5300円くらいが4人家庭だったら平均だと思います。それが2ヶ月分で倉敷市全体の今料金が約3600円くらいだと思いますので、これまでより結構下がると思います。5月分の料金から変わりますので、5、6月の分を7月に検針しますので8月の払い込み分からこれまでよりちょっと安くなっていることを見ていただければと思います。

合併の橋につきましては、一応順調に進んでおります。今のところは予定通り平成27年度中にはという思いでやっております。平成27年度中でございますので、平成28年の春くらいに橋ができるように今やっております。実際に工事を始めまして今まだ橋の真ん中の方じゃなくて取り付け部分の道路の所から始めておりますので、川の中の方に入りましたら工事の進捗状況が具体的に見えてくると思いますが、今のところは平成27年度中ということで頑張っていると思ってしております。多くの皆様から「わしの生きているうちに必ず渡らせてくれ」とお話を伺っておりますので、必ず早くやりたいと思っております。

最後に平成23年度4月からの倉敷市全体のことで大きく変わることを何点か申し上げます。まず私の公約の大変大きなものでもありましたが、子どもさんの医療費の無料化につきまして、今小学校前まででございましたが、6年生まで今度の4月の分から子どもさんのこれまでの入院の分に加えまして、通院の分も市の方で公費負担で何とかできることになりました。これまで景気も悪くてなかなか厳しい所もあったんですが、今後のお金の状況と歳入歳出の状況を見まして何とかこれが実行可能になりましたので、23年4月から実行させていただくことになりました。

もう一つ、倉敷市独自のもので頑張ったつもりなんですが、年配の皆さんの肺炎球菌ワクチンの補助制度をこの度新しく始めることにいたしました。医師会の先生とお話をしまして、一番効果があると言われております70歳の時に肺炎球菌ワクチンを打たれますとそれから約5年は必ずもつんですけど、一回打たれましたら打ってない方よりも、もし肺炎になった時に悪くなる確立が非常に低くなります。このワクチンにつきまして、医療機関の方で約8千円するんですけど、その分の3千円を市の方で負担をさせていただくということで今予算を計上しまして、それが通った所でございます。また4月になりましたら、医療機関の方で貼り出し等もあると思いますので、70歳の時に必ず受けていただきたいと思っております。1年目は70歳以上の皆さんに全員に受けていただけるように考えております。2年目以降の時には70歳になった時に医療機関に行ったら補助が出る形にお医者さんと相談しまして、今そういう仕組みになっておりますので、なるべく今年度23年度に受けていただけるようにと思っております。

最後に、倉敷の駅前の新しい公園の内容と名称が決まりました。今年11月にオープンする予定でございますが、倉敷駅の北の商業施設の所につくります倉敷の新しい公園の名前が「倉敷みらい公園」になりました。真備の地域の皆様からも大変たくさん応募をいただきまして、倉敷市の将来に向けての皆さんの期待する気持ちをたくさんいただきました。なるべく芝生広場を多くしまして、倉敷用水の水が流れておりますので、その水にも触れ合えるような公園ということと、今一番防災のことが全国でも言われておりますので、特に今回東京で電車が来なくて家に帰れない「帰宅難民」の方がたくさん出ました。そういうことも含めまして防災機能を持った公園にしていきたいと思っております。ぜひ皆様にもご利用いただきたいと思っております。また倉敷駅の所から大原美術館に行く所まで、

先ほどオープン式をしてきましたが、大原美術館までの所に「倉敷ミュージアムストリート」という名前ができました。「大原孫三郎通り」、「児島虎次郎通り」ということで、倉敷の駅の所から天満屋さん、商店街の所を大原美術館の絵のレプリカを50点、店の前に飾って下さっております。できれば倉敷駅に今後新しく来た皆さんがそれを見ながら大原美術館の所まで行っていただきたいということで、そういう仕組みを皆さんが考えて下さいますして「倉敷ミュージアムストリート」が今日まさにオープンしたところです。

今年は駅の北の施設も11月にオープン致しますし、大変多くの方が倉敷市内にお越しになると思います。その皆さんたちが倉敷市内を全域にあちこち来て下さればと思っておりまして、倉敷市真備町と船穂の美味しい果物も含めましてしっかり宣伝をしていきたいと思っております。それでは今から約1時間でぜひ皆様方からご意見や感想でも何でも結構ですのでお願いしたいと思います。

《参加者A さん》

菌地区のまちづくりの事務局をやっておりますAと申します。今回の東日本の大震災におきまして、倉敷市が非常にそのようにされているのはよろしいんですが、防災放送塔がかつて真備の時には9個あったんです。それでやかましいくらいよく分かったんです。それが合併して29に増えたと。3倍に増えたんですが、さっぱり聞こえない。防災は情報が第一なんです。今震災も情報が少ないから皆さんが心配をされている。倉敷市においては防災に力を入れているんですけど、そういう時にははっきり分かるように。倉敷市全体で集中制御で音量なんか制限されているらしいんですが、真備は以前と比べて全く聞こえないというのがあるので。

《市長》

音が小さいんでしょうか。

《参加者A さん》

聞こえない。真備の場合は「どこどこが火事です」というのがあって、それが「終わりました」という放送があったんです。今は全くない。消防の方の形態でやっているの、それはまちの人の考えていることであって、その辺を見直していただきたいです。3倍に増やして聞こえないというのは不安なんです。もう一つ「家の中にいたらやかましいからなんとかしてくれ」と倉敷市内の方がおっしゃるとい話を担当者の方からお聞きしたんですが、やかましいから肝心の津波等の時すぐ逃げられるんです。緊急の時ですから。そういうことを考慮していただきたいというお願いです。

《市長》

今29箇所になりまして、あとあまり全体的な運用が進んでいない現状です。今回は真備の地区は対象に入れてなかったんですが、今回の地震の時に市内全体で特に海の沿岸部の方に津波の注意報を全体的に言いました。今言われるように集中制御ばかりじゃなくて地域の特色を活かした防災伝達の仕組みができるように変更できる所をしていきたいと思っております。まず全体の仕組みができましたので、それを使いながら改良していければと思っております。それから音が「ぴよぴよ」という鳥の鳴く音が今のところ毎月1

日に朝7時か7時半に聞こえる・・・あんまり聞こえてないようですね。いろいろ皆さん意見がありまして、毎月一回だから声で言ってもいいのではないかという所もありますし、7時だと例えば水島の地区の方、水島に限らないんですが、夜勤明けで帰ってきて寝ている真っ最中なので大きな声で言われては困るという人もいます。鳥の「ぴよぴよ」だったら耳には良いんですが、聞こえているか分からないという皆さんの声もありましたので、月に一回くらいは大きい声でちゃんと聞こえるのかも兼ねてやらないといけないと今思いました。月に一回くらいなら大丈夫でしょうか。

《参加者A さん》

緊急の場合のことです。

《市長》

分かっております。緊急の場合もそうですが、それが使えるかを毎月ちゃんと確認しないと緊急の場合だけでは、この前使った時も地域によって聞こえにくいとか、まだ仕組みの調整がうまくできていない所もありました。やっと仕組みが今年度中にできた所ですので、その改良の中で今また検討させていただきたいと思います。

《参加者B さん》

倉敷には大小たくさん病院がございますよね。まさか災害等があった時には例えば市の各病院がどう対処するかを指示できる専門家がいられてこうなさい等が言えると思うんですけど、誰もすぐできないことなので、まさかの時にもやはり市としても考えておかないと。例えばこないだニュースを見ていたら学校の先生が高台に避難していてそこは助かったけど、その親は分からないわけでしょう。病院というのは大げさな話ですが、倉敷だったら倉敷の市民を守るような所でもありますし、市としてもそういうのを行政指導するのは必要なんじゃないかと思ひまして、市長の考えをお聞きしたい。

それから先ほど川の事を言われましたね。川というのは、津波とか突発的なことがあった場合は海から逆流して上がってきます。そしたら例えば倉敷でも酒津の所はちょっとやばいんじゃないかと。ダムを放流したときもやばいし。ああいう津波が来た時もやばいし。川下からだんだん工事されると言われましたが、実際にやばい所は一度市の方で点検していただいて工事が必要ではないかと思ひました。よろしくお願ひします。

《市長》

一定規模以上の病院については自家発電が義務付けられておりますので、あるはずですが。今回のことで、まだわれわれの支援の方ばかり考えている所ですが、これを教訓にして自分の方でも市内の病院等の自家発電のチェックや備蓄等をお願ひしておかないといけないとよく分かったので、一定の時期にそういうこともやっていきたいと思ひます。

川の事については酒津の所はおっしゃるように倉敷市のこちらの川よりも東側の地域にとっては、酒津（の堤防）が切れたら街が全部浸かる状況になります。非常に大切な所です。分担としては国交省の一番大事な所になっておまして、国交省がよくよく検討をしてくれていますので、心配してないんですけれども、やはり災害が起こると一番心配な所ですので、倉敷市としても点検もしますし、国の方にも強く言いますし、それから、

抜本的な一番重要なのはこの高梁川の改修計画です。柳井原の貯水池を抜けて川が2本分かれるようにすることが倉敷市全体を守ることにもなりますし、この周りの地区に小田川の水が逆流しないことにも繋がります。もちろん柳井原の地域の皆様には大変な環境の変化があるんですが、しっかりお話をしまして柳井原の地域の皆さんも分かっているけれども、自分の環境が非常に変わるので不安も持たれております。その所もよくお話をして国にはなるべく早く進めてもらいたいと言っておりますので、酒津のことは市としてももちろん注意をしてやっていきたいと思っております。

それからハザードマップをお配りいたしております。地区ごとにもお配りしています。ハザードマップには色がほとんど塗ってあると思います。倉敷の川の東の方の地区もそうですが、数年前に豊岡で堤防が切れまして町中水浸しになりました。あのように入防が何箇所も切れた場合に、倉敷の東の方であれば街の大部分がいつべんに浸かるわけではありせん。だんだん浸かることになるのでそういうことが起こるといことであり、真備の地区も同じように高梁川・小田川の所の堤防が何箇所もいつべんに切れるとああるといことですので、普通はそういうことはないのですが、国交省はああいう形で発表しております。ただ今回の東日本を見ましたら、やはり災害が起こった時には少なくとも色が付いていない所、やっぱり念を入れて山の上の方に逃げてもらうようにしないといけないと思いました。

《参加者C さん》

菌のまちづくり推進協議会のCと申します。先ほどの防災無線の音量について付け加えておきます。2月1日に流すから音量等を聞いてその結果を連絡してほしいという連絡がありました。鳥のさえずりという表現でなかなか良いんですが、7時45分に防災無線の真下でどの程度の音量かを二人で聞かせて頂きました。「鳥のさえずり」と言いながら高音は聞き取れません。これが私一人なら個人的な見解もあるんですが、複数の人で聞きました。甲高い音で鳴ります。音量や流す声の質は人の声に値すると思しますので参考までよろしくお願ひします。

私達まちづくり推進協議会は自分たちで自分たちの住む地域を安全安心なまちにしようと子どもの通学路の安全パトロール、21年度からは災害にどう対応するか、これは1回2回で知識が増えるわけではなく、やはり時間をかけて勉強しようと防災のいくつかの研修をしながら会を重ねております。東北関東大震災のような想像もできない災害に見舞われた時になすすべがないというだけでは後の社会の対応に問題があるかと思ひます。今日も「地域力を活かすまちづくり」といことですが、今地域住民はこいう災害の時にごう対応をするか。「地域のことは地域で」といのは今行政の方向としては、自分のことは自分で守る、地域のことは地域で考えよう、と盛んに言われておりますから、こいう点でわれわれも勉強していかないといけないんですが、助言をしていただければ幸ひと思ひますので、よろしくお願ひします。

《市長》

菌地区のまちづくり推進協議会での活動の報告もありがとうございます。最初に申し上げるのを忘れていたんですが、真備の地区では7つのまちづくり推進協議会の活動を大変活発にさせていただいて、それぞれの地区の中心になって行っていることに素晴

らしい感謝をいたします。先ほど出ておりますが、音のことと、流す内容については検討をいたします。毎月一日の分はいずれにしましても、実際の所は災害が起きたら人がしゃべるわけです。もっと分かりやすく比較的低い声よりも高い声の方がいいらしいので、ちょっと高めの鳥の声を試しにまずやっていると聞いたんですが、実際話すのは人になりますから、人の声でもっと慣れていただけるようにした方がいいと今日感じました。

災害への考え方でございますが、やはり大きく2つあるかと思えます。1つには行政側からの行動。それから1つには市民の皆さんからの行動だと思えます。行政側からの行動としてはもちろん避難の情報や避難勧告を出したりするわけですが、それを出しただけではもちろん市民の皆さんを行政が全員救出することは難しいので、やはり何といても一人一人が今おっしゃって下さいましたが、自分の身は自分で守る、地域のことは地域で守っていくというのがやっぱり基本になると思っております。その中で日頃からのまちづくり推進協議会の活動とか、その中で防災に関することをどういう所に力を入れて、例えば訓練をしてもらったり、今回のような事を踏まえて東北の方でもやっぱり逃げる練習を随分されていた小学校の子どもは全員が避難してほとんど無事だったと聞いておりますので、学校単位でのそのような訓練をもっとやらないといけないと市としても思っております。地域の皆さんたちへの声かけはもちろん災害が起こったら防災のサイレンや広報はいたしますが、もしかしたら鳴らないこともあるかも知れません。ですので、やはり災害・地震が起こったら今の状況を、もしかしたら水が溢れてくるかも知れないと思っていただいて、なるべく上の方にすぐ逃げていただくことが必要になるなあとより思いました。市民の皆さんの行動と市の方からの行動、そしてそれぞれの助け合いです。それを基本にしてやっていきたいと思っております。まちづくりの協議会の皆さんのご協力は本当に大きなものであると思っておりますので、今後ともよろしく願います。

#### 《参加者D さん》

私は審議委員をしているんですが、市長は審議委員の意見を読まれていると思っておりますが、読まれてどのようにお考えなのかを聞きたい。先ほどAさんがマイクのことを言われましたが、会議の前にこういう会議をしますと書類を送ってきます。私は川辺の中でマイクが聞こえない所を一応チェックしました。チェックして歩いてそれを会議の時に聞こえにくい場所を審議委員会の時に言ったんですが、新しくできてきたのはそれが全部カットされていた感じです。審議委員会で直接市民が準備している事をお伝えしても、市の方がちゃんと決めてきたもので実行されることが今までいろいろあり、なかなか審議委員が言ったことが可能になっていないと私には思えます。そういう審議委員会の答えをどう受けとめておられるのか聞きたいと思えます。

もう一つ、川辺地区の公民館の分館の集会所のことですが、もう何十年もひいているカーペットがあります。昨日もサークルの皆で踊ったんですが、足に物凄い毛羽立つ埃が足にいっぱい付くんです。目には見えない埃が皆バタバタ動くとしているんじゃないかと思えます。昔はカーペットで良かったんですが、現代ですとフローリングにしまして、一応使った人がフローリングであれば使った後掃除をして帰ることもできますが、カーペットの場合は使っても掃除をせず、すぐ戸を閉めて帰ります。川辺の場合は特に使用が多いんです。子どもが転げて遊んだりしていますが、目には見えませんが埃が立って、アレルギー等で健康上にはいかがなものかと思えます。この2点よろしく願います。

《市長》

地域審議会の件は、定期的に担当の方から報告を受けております。先ほど言われました例えば音の件ですが、地域の施設の設置場所とか音量が聞こえにくい所とか直せる所はもちろん直しています。例えばいろんな提言でもありまして、施設のこの場所でもっとこっちにできないかという話もありますので、今の市の状況としてはひとまず22年度中に何とか市の公共施設等を使って全域をカバーできる所を付けて、調節して何とか災害時に全部に声が聞こえるようにやっています。それぞれ一つずつの分についてはまだまだ今言われますように調整が必要かと思っておりますので、ご意見をいただいている所はよく防災の方と相談をさせていただきたいと思っております。今は支援の方で忙しいかも知れませんが、しっかりしていきたいと思っております。

カーペットについては、確か一度クリーニングをさせていただいたように思うんですが、確かスチームクリーニングで全部一回綺麗にさせていただいたかと思いますが、抜本的にフローリングにできないかという話もございます。一方でフローリングがいいかどうか地域でもご相談いただく必要があるかと思ひますし、他の公民館との関係もあるかと思ひています。なかなか今すぐフローリングにしますとも申し上げられないんですが、基本的な考え方は地域地域でよく相談していただいて、次の改修の時にフローリングがいいのか、新しくカーペットにしても随分取り替えていないと伺っておりますので、新しいカーペットか何かもっと違う素材で今よりも埃が立ちにくいものにするのかを次の更新の時に考えるようにしております。

《参加者D さん》

川辺の人が100万くらいだったら皆で出し合って、認めてもらえればフローリングにするという声も出たんですが、なかなかOKが出なかったんです。市が考えた事は市民が言っても通用しないのかと、私も審議委員会のことでいろんなことも言ったんですが、全部却下されて実現されたことが一つもありませんので、なかなか思うようにいかないと思っております。

《市長》

今日こういう提案をいただいたことも踏まえて今後しっかり検討させていただきます。

《参加者E さん》

福祉の問題で、この地域につきましては地域の市民の連帯感とコミュニティ意識の強い市民が、そういうことで地域福祉の支援が非常に進んでいる地域でございます。介護保険につきましても来年度から見直されて国においては介護職員の賃金格差の影響で月あたりの介護保険料が、1000円程度上がると言われていると思います。倉敷市は4700円で岡山市で4775円程度だと思ひます。現在今倉敷約10万人の1号被保険者がいると思ひます。そのうち約20パーセントの2万人程度が要介護と要支援を受けていると思ひます。それを私1万5千人までにすることによって、介護料とか医療費が多く下がってくると思ひるので、そのために、これを施設福祉にすると費用がかかるんです。だから地域福祉になると費用がいらぬんです。だから地域福祉を真備町から情報発信して全市に普及

することによってぜひとも介護保険料を現在より上げなくて済むと思います。地域福祉という重点問題にしたいと思うんです。ただし、そのためにこの前倉敷で初めて介護支援ボランティア制度ができたんですけど、これについてもせっかく伊東市長さんが見直すという話をされたと思います。地域福祉活動も含めてボランティア制度も含めてくださればいいです。いくら活動しても最高5千円まで百点でしたか。施設福祉の方は1500くらいになっているんですが、私たちの施設、地域福祉とは100円ですから10分の1で済む。安くなりますから、真備町からそういうふうな地域福祉を充実させてもらいたいと思います。それから介護保険につきましても、介護支援ボランティア制度につきましては直接担当課に申し上げておりますから見直しについては当課が分かると思いますので、そのことについては5千円がほしくてボランティアをする人はおらないんです。たまたまボランティア保険料がでるからくらいのもので、これは心のことですから。地域福祉活動についても地域福祉ボランティアについてもまちづくりの方がボランティアをしていてもボランティアで活動する時にももっと認めていくように。よろしくお願いします。

#### 《市長》

特に福祉のことに力を入れていかないといけないというご意見だったと思います。私はまちづくり活動は地域ごとに盛んに行き下さっているのが一番大きいのではないかと非常に思っております。地域福祉活動を進めていくということで、介護ボランティア制度の関係を平成22年度から始めたのが改正、非常に多くなっておりまして、22年度にボランティア制度を一年間やってみまして今言われましたような見直しをしないといけない所も出てくるのではないかと思っております。いろいろお声を地域からいただいておりますので、それを含めてボランティア制度をもっと使っていただかないといけないと思っております。その辺りを改正していければ良いかと思っております。23年度の4月からすぐできるかは分からないんですが1年やってみて今いただいたご意見も含めてもっと改正点を見直していきたいと考えております。福祉課の方に言っている意見をしっかりと聞かせてもらって職員と相談させていただきたいと思っております。

#### 《参加者F さん》

今防災の話から始まって、まちづくりがそれを受け皿として大切だという話があったと思います。私の方からはまちづくりという組織が今どういう実態になっているのかということと、この組織が財政的な保障がないとなかなかうまくいかない所があるということです。例えば川辺の場合は住民の方々から1戸当たり800円の会費を頂いてそれを経費として運営する形をとっています。他の真備町の中の地区はそれぞれ違うらしいですが。あと、やる事業に応じて倉敷市の補助を受けています。補助事業というのは半々でやることになっていて、それも清算払いということで年度末に今なったんですが、まず財政的な保障という点においては今どうなっているんですか。川辺の場合は年間財政規模は180万で地域住民が約3800人で約1300戸です。いざ防災というときにそれを支える組織になるかどうか将来を私は非常に不安に思っていますし、どう強化していくかを考えていかないといけない中で2つ市長にもお考えを聞きたいと思っております。真備町には真備町時代の頃から各7地区、とてもいい地域のセンターとしての公民館を作っていました。この公民館は非常にしっかりしています。まだ新しいんですが、この真備町内の7つの分館の建

物を今後どうしていくのか。一部では指定管理制度にそのうち任せていくというお話もあるんですが、7つの分館を私の意見は地域のセンターにすることが必要だと思いますが、どう思われているのでしょうか。

もう一つはまちづくりの組織を強化していく流れの中で今よく言われている「新しい公共」という視点でのいろんな支援事業が昨年度の補正予算の中で23年度24年度、合計で87億5千万ですか。これを予算化されて、すでに県の方では岡山県分として今年度予算が約1億6千万ですか、それを単年度でやるということで8千万規模の支援事業、新しい公共支援事業をすでに県の方はもう呼びかけていますけども、これを受け皿にできるのは市町村とNPOの組織ができるわけですが、倉敷市はそれについてはどう考えているのですか。昨日説明会があったんですが、倉敷市はそれについてどう対応をするのか。つまり私が言いたいのはまちづくりを強化する上で支援事業、これは補助事業ですが、精算払いになります。先にお金が出るんです。いろんな活動のやり方も公共事業は非常に手間なんです。領収書もきちんと書きなさいとか基本的にはめんどくさいです。それを嫌がっているのもあるし、それは大きな障害になっていると思いますけど。そういう簡素化をどうしていくかというのはもちろん大切だと思いますが、どう市長さんが考えているのか。そこがないと防災に一番大切なのはネットワークをどう作るかですから。助けに行くのはあなたが行くんだとか。そういうものがどう作られるかが一番大切で災害が起きた時だけではなくて、肝心なのはそれからの復興です。復興の時に一番助け合いの精神が必要になってくる。そこをどう考えているのかをお願いします。

#### 《市長》

まず公民館のことですが、公民館の分館の行方についてご質問をいただきました。今指定管理者のお話もありましたが、平成23年度からの検討の中で公民館の在り方を、もちろんこの7つの公民館の分館がなくなるということではないです。指定管理に、もし出すとしても運営管理の部分を出すかどうかであって、大きく変わるのではないと思っております。指定管理の方向について23年度から検討を開始することになっています。まだ方向は出ていないんですが、ただもし指定管理なしになるとしてもさっき申し上げましたが、管理運営の方向が変わることになると思います。

2つ目の新しい公共ですが、この新しい公共の部分を含めて今国の方で23年度予算がまだ通っていないのですが、子ども手当の分が実際のところ23年度からの分の上積がどうなるかまだ途中で全く分からなくなっております。それを上積がある前提で話が進んでおりましたが災害が起きまして、上積の分を災害に回さないといけない話になりましたので、その予算もまだ決まっておりません。新しい公共の分も23年度の分に向けての大きな目玉の一つだと思うんですが、マスコミの方がいらっしゃっているので言いにくいんですが、実際に進むかどうかは説明会が昨日なので言ったかどうかは聞いてないんですが、もし言わなくてもちゃんと情報は必ず市の方に来ますので。それにちゃんと事業が行われるならうちも参加するつもりですが、今の状況を見て本当に子ども手当等を含めて新しいことが前に進むかはまだ非常に不透明な状況だという印象を今のところ持っておりますので、しばらくの間は復興一本のようになるんじゃないかという印象は持っております。もちろん復興も大事ですが、われわれの普段の地域のことも非常に大切でございますので、両方がうまくいくようにやらないといけないと今考えております。そ

のくらいしか今のところ分からなくてすみません。

《参加者F さん》

新しい公共の支援事業の予算は鳩山総理の時代のときに、補正予算でもう通っているから必ず実施される方向での説明でした。県は8千万の予算を組んでいます。

《市長》

必ず実施されますか。市の方にも必ず情報は来ますのでとにかくよく調べます。

《参加者G さん》

私は箭田のGです。岡田に親戚がいて「横溝正史ミステリーツアー」のパンフレットの地図がとても省略されていて、清音駅から歩いて岡田まで個人で県外から遊びに来られる方がいます。その後どうすればいいかとか尋ねられる回数が多く「帰りはどうすればいいか」と尋ねられる回数が凄く多くて、何度も清音駅まで送っているんです。場所にも送るし。清音から岡田まで来ただけで疲れ果てていて精神的に「空いている時間がない」と言っていて車で案内している状況です。だからもう少し地図を細かくしていただけたらと思います。休憩所も載ってなかったらしくて「地図を見たらすぐ来れるんかと思って来たんだ」と言っています。ぜひよろしくをお願いします。

あと「安心安全のまち」というコンセプトであれば、できれば小・中学校の給食を無添加でお願いできたらと思います。私の娘が添加物アレルギーで、できれば無添加のものを食べさせたいので家では気を付けていますが、学校の給食では難しいところもたくさんあるので、お願いしたいです。

新道とか県道等の通学路の点滅信号がもっと簡単になったらと思います。服部の方の点滅信号が1箇所、ボタンを押したら凄く早いんです。箭田の方にも点滅信号を子どもが行く所でいいので見直して欲しいです。

《市長》

今は点滅の通学路はないんですか。

《参加者G さん》

あります。押してから青に変わるまでが長いです。

《市長》

朝の通学ですね。

《参加者G さん》

そうです。あんまり早く変わり過ぎても急にトラックが来ても困るんですが、できれば服部の所が凄く良い感じでボタンを押したら早いので、お願いします。

《市長》

横溝正史のパンフレットは確かにパンフレットを見たら近いように思いますが、今言わ

れましたように県外から来た方も歩いてみたら遠いということで、次に改定する時にもっと分かりやすくしたいと思います。2回ほどだいたい同じので好評だったので使っていましたが、今後の改定の時にはもっと何かしら良くなるように、もしくは今のままのパンフレットが随分印刷しているようであれば紙を挟みこむ等させていただきたいと思っています。

給食の分ですが、この前発表がありました。倉敷市内の給食の分は県内で一番地産地消の割合が高いと統計も出ていましたので、もっとまず地産地消の割合をとにかく高めていくようにと考えています。

それから点滅信号が服部の所のようにならないかということでございましたが、点滅信号の間隔等については県の方になります。もちろん市の方からも言えるんですが、例えばこの信号を付けてもらえないかとか間隔を朝だけでもっと短くできないかということは一般的には地域の県警の担当になります。ですので、県議さんに町の皆さんで通学時にもっとこうできないかと言っていただいてから県警の方と調整をしてもらうのが一番いいと思いますが、それも言っていただきつつ地域の皆さんに私も聞いてみたいと思います。また箭田地区の皆さんからもお話を伺いたいと思っています。何しろ安全に子どもさんに通学していただくのが一番だと思います。

《参加者H さん》

菌地区のHと申します。井上桂園先生を顕彰するということで今9年間井上桂園を忍ぶ「書初め会」をやってきました。菌には地域力を活かすものがなく、井上桂園先生を顕彰していこうと始めて9年になります。市長さんにお礼を申し上げたいのは、今年の倉敷市の顕彰の時に来られて、その中で「井上桂園先生が一番のお手本だ」と言って頂きましたので、そういう所まで勉強されていて私は非常に感激いたしました。そういうことで井上桂園先生の書を分館にぜひ展示していただきたいと文化振興課の方ともう一人来て頂きましていろいろお話して、行事の時にはお出しするけれど常時というのはなかなかできない、展示する所を作らなければいけないと。費用も相当かかるようですが、そういう費用は分館にはないのでなかなか難しいと言われたんですが、ぜひ菌地区の今後のため今現在書かれている人のために、活性化を求めるために、市長さんは非常に関心を持たれていましたしぜひ菌地区に展示していただける場所を作っていただきたい。それだけお願いします。

もう一つは福祉です。市が包括支援センターに丸投げのような形をされているんじゃないかと思うんですが、菌地区はボランティアが盛んなので別にどうとは思いませんが、やはり要らない労力を少なくするにはっきりとした指針を行政の方から出していただいて早く進めていただきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

《市長》

今菌地区の分館には井上桂園先生の書はないんですね。

《参加者 さん》

菌地区には何にもないんです。

《市長》

私も不勉強で倉敷市の方で桂園先生の書はどこにあるかまで今確認してないんですが、どうでしょうか。

マービーに展示してあるんですね。今度マービーに行った時にまずマービーの分を見えます。菌の分館に行った時に菌の展示場所があるのかどうかも拝見したいと思います。井上桂園先生は本当に倉敷市の全体の書初めのお手本になっておりまして、本当に子どもたちも各地区から皆応募をしてくれているので素晴らしいと思っておりました。何らか改善できるかまず検討してみます。まず見に行かせて下さい。

《参加者 I さん》

箭田地区の I と申します。真備町には7つの地域があり、先ほどから皆さん活発な意見が出ていました。まちづくりの活動がそれぞれに活発です。幅広い年齢層の中で青年の力を活かせ場が少ないかなと感じています。提案ですが、成人式を毎年合併後はチボリ、その後はマスカット球場でされていますが、顔の見える地域で祝ってあげたい。まちづくりの協議会、合併前は青年団が地域で凄く協力して新しい成人を祝う準備をしていました。今もその力は必ず持っていると思うんです。朝早くから着物を着て交通の便も悪い所に行くのではなくてそれぞれの地域で皆の祝いをしてあげられる形に何とかしていただけたらと思って提案させていただきます。よろしくをお願いします。

《市長》

青年の力ということで、まず本当に成人式の時にいつもまちづくり協議会の皆さんに餅をありがとうございます。成人式の成人の皆さんも大変喜んで下さっておりまして、本当にありがたいと思っております。成人式の場所の件については市内でもいろんな意見があります。もともと地区でされていたのですが、何年前か忘れたんですが、ある時期から非常に参加率が低くなってきてまして30パーセントくらいになったんです。人数があまりにも少なくなりましたので市全体でやりましょうということになったと聞いております。今はマスカットの方ですが、雨が降ったら振袖が濡れるということで非常に課題もあるということで、また平成23年度に今後のことについて検討していきたいと思っております。一つの私の考えでは、今度は倉敷みらい公園が使えたらどうかと思っはいたんですが、やはり屋外ですので振袖が濡れることには変わらないので、確かに濡れたらいけないと思います。ですので、必ずしもみらい公園でやったらいいとは思っておりません。といっても場所がないから3千人規模入れる所がないので困っていることも事実なので、平成23年度にまた今後のことも含めて「成人式のあり方会議」を成人の皆さんも含めてやっていただくことになっております。その中でもう一回地域ごとがいいのか、それともこういう工夫をしてここでやった方がいいのか検討していきたいと思っております。

《参加者 J さん》

箭田地区の J と言います。先ほど市長さんの話で3年後に支援学校ができるということでも当事者の関心が高く楽しみに待っています。2年前に岡山備中県民局に作っていただいたパンフレットですが、これで真備の地区にもそういった NPO とかさっきの7つの地域のまちづくりの方とかもあって、本当に非常に自助努力をされている地区だと思い

ます。せつかく3年後に支援学校ができるので、できれば障がいの方を支援する方が住みやすい、また子育てがしやすくやさしい地域にしていきたいなと思っていますが、障がいが多々あって、身体もあれば知的もあれば精神もあって、お手伝いしたいけど今できないという、災害もそうですけど、実際に障がいを持った方々がおられても気持ちがあってもなかなか声かけ等ができないとか、思いが形になって助け合いも実行できると思うんです。それを実現するためにも支援学校を機に3年間で力を活かせるようにぜひ支援して欲しいと思います。支援学校ができることは皆さんご存知だと思うんですが、具体的にどんな人たちが来られるのかとか内容が全く分からないので、つい先だって県と倉敷市の教育委員会の方にお電話を差し上げたんです。そしたら県の方は現在事業に係わっている方には説明をしていると。倉敷市の方では県の行政がやることだからこちらには関係ないという感じで返事をされたんです。そういうことではいけないと思うので、もっと現場に係わっている方たちが積極的に自分たちの地区で、行政的には担当が違うのかも知れませんが、内容的には実際に関わるのは地域とか行政の方たちなので、もっと柔軟にしていたらいいかなと思っています。

《市長》

市の方が多分今のところ、中身については県が担当しているのでうちだけでは答えられないというつもりで言ったんじゃないかと思うんですが、今後県も中身が具体になってきましたら県と市と併せて地域の、もちろん県だけの場合もあるかも知れません。なかなか市だけでというのができるか分かりませんが、県だけでもしくは県と市で地域の皆さんと一緒に、支援学校が26年にオープンというのを目指して活動していただけるようにと私も思っております。特に県がこの場所を選んで下さったのは、近くに小学校・中学校もあり非常に環境もいいということと、やはり町の皆さんたちとの繋がりを子ども達にしていくには非常にいい場所だと考えたと思っていますので、よろしく願いできればと思います。

《参加者K さん》

先ほど横溝正史の疎開宅の話が出ました。私は同じ町内の者ですが、県外からお越しになられる人がいらっしゃいます。私はその前をしょっちゅう通ります。朝早く来られている時もありますから「おはようございます、ようお越し下さいました」、「どちらからですか」と。車のナンバーで、「〇〇からお越しになったんですか」と私も声掛けするんです。「開けさせていただけますでしょうか。鍵を取ってきます」と近所へ行くんですが、「近所に鍵を預けとる、セキュリティがかかっているから開きはしませんで」と地元の人に叱られました。建物も古く、学校も横溝正史さんが疎開なさったから貴重なお宅なんです。私も時々中へ入って見るんですが、そんなに貴重品もないでしょう。セキュリティがかかれば、どうぞ入ってみて下さいと、部屋を覗いて一生懸命ご覧になっていますから、見ていただいたら結構かと思えますから。セキュリティがかかっていたら向こうから飛んでくるから無理して開けても叱られるからと、低調にお断りするんですが、やはりセキュリティがかかってないといけないんでしょうか。

《市長》

私ももちろん何遍か行ったわけですが、貴重な写真とかここで書いたという貴重なテーブル等確かあったようにも思います。外から見れば鍵が必要な気もするんですが、なるべくせっかく県外から来て下さった皆さんが見ていただきやすいように、休みは・・・。

《参加者 さん》

週に3日くらいです。

《市長》

地域の皆さんで、管理して下さっている方がいらっしゃるんですね。少し日にちを長くして下さったような記憶はあるんですが、県外から横溝正史を目指して来られる方が多くなっているので、相談してみます。例えば休みの場合でもどうしてもというファンやわざわざ来られた方もいたらここへ連絡して下されば守って下さっている方に鍵を開けてもらえるかも知れませんが、遠くから来て下さった方は大事にしないといけないと思います。そんなに遠くから休みの日に来て下さるとは知らなかったんですが、何か改良ができないかどうか検討してみたいと思います。

《参加者K さん》

その方に言っても「来やしませんで」と叱られますので、所と名前を聞いて後からご丁寧にお断りをしていたんですが、せっかく県外から来て下さっているから本当にお気の毒でした。他の方は県外からの方に遭遇されたか分かりませんが、私は2回ほどあります。

《市長》

ちょっと相談してみます。

3時15分になりまして、大変恐縮でございます。今日は本当にお休みの中皆さんご参加賜りましてありがとうございます。今日いただきました地域の防災のことを始め、成人式のこと、福祉のこと、地域の魅力を発揮すること、公民館のことを始めいろいろお話をいただきました。これからの行政のヒントもたくさんいただきましたので、行政に活かしてしっかり頑張ってまいりたいと思いますし、今後とも地域のまちづくりに関してくれぐれもよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。